

沖縄県議会議員
会派「おきなわ」会派長

平良 昭一



議会活動だより Vol.4

発行：平良昭一 活動ブログ <http://tairashoichi.ti-da.net/>



■ 沖縄県議会 〒900-8501 那覇市泉崎1-2-3 沖縄県議会502号
TEL 098-866-2630 FAX 098-866-2588

■ 政治活動事務所 〒905-0228 国頭郡本部町字伊野波258-1 A棟101号
TEL 0980-47-6283 FAX 0980-47-6271

議会人として最大の効果を得られるよう 全力で取り組んでいく

2020年6月の県議会議員選挙で皆さんの負託を受け議員活動をさせて頂き、積極的に県政に関わって頑張っているところであります。

昨年から新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、これまでに経験したことのない事態に陥った状況が続いています。

各種イベントの延期・中止が相次ぎ、緊急事態宣言も出され、飲食業に対する営業時間短縮要請など、日常生活は大きな変化を余儀なくされている日々が続いています。



生命や経済に大きな影響を与え、困窮する県民のために今こそ何が出来るかを模索するものであり、厳しい局面であるからこそ沖縄県議会条例に基づき、議員の責務及び活動原則、議会及び議員の果たすべき役割を明らかにするとともに、議会の権能を高め、県民の負託に的確にこたえ、もって県民の福祉向上及び県勢の発展に寄与していく決意です。

コロナ禍で苦境に陥っているこの現状を打開する為、沖縄県民の心をひとつにしてこの難局を乗り越って行きましょう。

これからもご支援ご鞭撻をお願いします。

タイラ 昭一

平 良 平成24年度に沖縄県水源基金が解散となり、助成金が打ち切れ、北部を中心としたダムを有する財源が乏しい町村では水源涵養等の機能維持に苦慮しているところである。そこで平成28年度から水源地域環境保全事業により、水源地域市町村に助成金を交付しているが、このような一時的な助成措置ではなく、永続的な水源地域の振興策を講じるために水源基金を創設してほしい要望があるが県の考えをお聞きしたい。

企画部長 県では、水源地域に対する理解の促進と地域の振興を図るため、平成30年度まで実施してきた北部地域の水源涵養機能維持を目的とする1000万円の事業に加え、令和元年度からヤンバルの環境保全対策や水源地域の振興に関する事業を新設し、やんばるの森・いのちの水事業として、総額3000万円の助成事業を実施しております。水源基金創設については、水源地域市町村及び受水市町村との意見交換を行い、意向を確認してまいります。



平 良 遅れている世界自然遺産登録に向けた取組について伺う。

環境部長 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録については、本年6月のユネスコ世界遺産委員会において審査される予定となっておりますが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け、本年4月に同委員会の開催延期が決定し、現時点で、新たな開催時期等は未定となっております。県としましては、沖縄島北部及び西表島の確実な登録及び登録後も見据え、遺産価値である生物多様性の保全を図るため、引き続き国や関係団体等と連携しながら、マングース等の外来種対策や希少種の交通事故・密猟防止対策等に取り組んでまいります。

平 良 琉球歴史文化の日の制定について伺う。

知 事 先人たちが創り上げてきた沖縄の歴史、文化への理解を深め、ふるさとへの誇りや愛着を感じられる地域社会の形成を目指すとともに、新たな歴史や文化を県民自らの手で創造していくことを決意するものとして、有識者等で構成する検討委員会で協議を重ね、その候補日11月1日として発表したところであり、現在、条例の制定等を含め検討を進めております。私としては、琉球文化歴史の日の制定を通じ、祖先ウヤファーフジへの敬意、自然への畏敬の念、他

者の痛み寄り添うチムグクルを育めるような日として広く認知されるよう取り組んでまいりたいと考えております。



平 良 過疎地域の生命線である共同売店の支援策について伺います。

企画部長 共同売店は、地域集落の方々が共同で出資・運営する商店であり、地域コミュニティの維持に重要な役割を担っているものと認識しております。県内の共同売店の経営形態については、集落直営や個人への運営委託などの例があると承知しております。車の普及に伴い大型店舗等が進出し、共同売店の数は減少傾向にあり、例えば国頭村においては、ここ5年で14店舗のうち、4店舗が閉鎖していると聞いております。県では、交通弱者である高齢者をはじめとする住民の生活を支えるため、地方創生推進交付金を活用し、交通不便地域における移動販売車の導入など、集落の機能維持を図る小さな拠点づくりを支援してきたところであり、引き続き市町村と連携しながら本事業をモデル事業として、地域コミュニティを維持・再生する取組を広げてまいりたいと考えております。

平 良 やんばるインバウンド・クルーズ推進と課題、そして水際の検疫が重要であり、その対策について伺います。

知 事 平成29年に本部港が官民連携による国際クルーズ拠点に指定されたことを受け、令和元年11月に、北部12市町村等から成る北部振興会内に新たにやんばるインバウンド・クルーズ推進部会が設置されました。今後は、北部地域の実情を踏まえつつ、クルーズ客の満足度向上や地域活性化をバランスよく推進していくことが重要であると考えております。また、国際クルーズ拠点として外国クルーズ船を安全・安心に受け入れていくためには検疫等を行うCIQ機能の常設が必要であると考えており、沖縄県としては、引き続き国に対してCIQの常設化を要請してまいります。

平 良 北部地域の中にも携帯電話が繋がらない地域があり、不便を来している場所が多くあります。県内の状況把握とその対策についてお聞きします。

企画部長 県においては、携帯電話不感地帯について、市町村への照会や総務省沖縄総合通信事務

所が実施する調査への協力等により、状況の把握に努めております。携帯電話については、無線通信事業者が全県的に基地局を整備し、サービスエリアの拡大に努めておりますが、東村及び竹富町西表島、南大東村等において、住居や事業所などがない一部地域で不感地帯が発生しております。県におい

ては、無線通信事業者による基地局整備が促進されるよう、県有施設への設置を許可しているほか、さらなる不感地帯の解消に向け、地元市町村や無線通信事業者等と連携しながら、国の携帯電話等エリア整備事業を活用した基地局の増設等について検討しているところであります。

令和2年9月議会 代表質問概要

平 良 ドクターヘリMESH再稼働と県の対応について伺う。

保険医療部長 北部広域市町村圏事務組合においては、内閣府の令和2年度北部振興事業の予算を活用し、本年10月から令和3年度までの計画期間で沖縄北部地域救急・救助ヘリ運航事業を開始することとあります。また、その運航については、NPO法人MESHサポートに委託を行う予定であると聞いております。県としましては、今後とも国や関係団体と連携し、北部医療圏における急患空輸体制の充実に取り組んでまいりたいと考えております。



平 良 海岸の漂着ごみ対策について伺う。

環境部長 県が平成23年度から平成26年度にかけて行った調査から推計すると、毎年約3000トンのごみが県内の海岸に漂着しております。県や市町村が実施する海岸漂着物の回収・処理については、国が事業費の9割を補助する制度があり、県はこれを活用するとともに、市町村に対しても当該補助制度の活用を促進しているところです。この補助制度による回収を含め、令和元年度は県、市町村、ボランティア団体で337トンを回収しており、引き続き国の補助制度を活用し、回収・処理を推進してまいります。

平 良 来年予定されている世界のウチナーンチュ大会について伺います。

文化観光スポーツ部長 第7回世界のウチナーンチュ大会については、大会実行委員会において御審議いただき、令和3年度の開催を見送り令和4年度開催が正式に決定されたところです。令和3年度においては、大会参加者及び関係者の機運醸成のための広報事業等を進めていくとともに、ウチナーネットワークの次世代への継承に大きな

役割を担う国内外の若者の参画や活用も含め、第7回大会の成功に向け取り組んでまいります。

平 良 離島のガソリン価格対策の対応と成果について伺います。

企画部長 県では、本島から県内離島に輸送される石油製品の輸送経費等に対し、補助を行っており、適宜実態に合わせて補助単価を見直すなど、離島における輸送コストの低減に努め、本島と離島のガソリン価格差縮小を図っているところであります。その結果、平成30年度に実施した石油製品販売事業者経営実態調査において、平成24年度と比較して、レギュラーガソリン1リットル当たりの価格差は25円から16円に縮小しております。また、さらなる価格差の縮小に向けた取組として、一定規模以上の販売量がある離島において、ガソリン価格の本島・離島それぞれの価格の市町村広報誌への掲載や石油販売事業者への看板設置の要請を行っており、適正な競争環境の醸成に努めているところです。

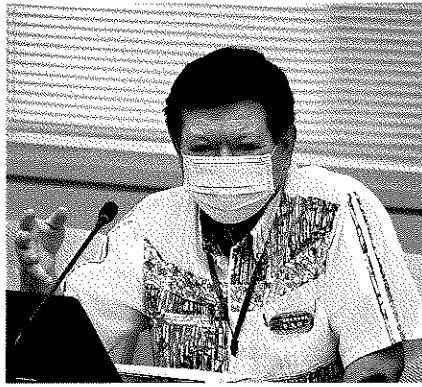


平 良 シークワサー立ち枯れ被害対策について伺います。

農林水産部長 シークワサーの立ち枯れについては、台風等による樹勢の低下や病害虫の被害等様々な原因があります。このため、県では令和2年8月24日に普及機関や試験研究機関等で構成するカンキツ立ち枯れ症状対策チームを設置し、原因究明に向けた調査を進めているところであります。県としましては、生産農家等に対して原因究明調査結果の説明会や、効果的な対策についての講習会等を行うなど、市町村、関係団体等と連携し、シークワサーの安定生産に向けた生産振興対策に取り組んでまいります。



子どもの未来応援特別委員会



決算特別委員会



総務企画常任委員会



那覇空港ビルディング意見交換会

記者のメモ

特産品の立ち枯れ憂慮



○：北部で広がるシークワーサーの立ち枯れを憂慮する平良昭一県議（おきなわ、国頭郡区）。シークワーサーは地元本部町の特産品。4年前からは生産者や加工業者ら約20人で「シークワーサー模合」を聞き、那覇に出るときは加工製品を持ち歩き、売り込みに汗を流す。「まだ生産量は十分あるが、いま対策を打たないと大変なことになる」と危機感を強め、県に徹底した原因究明を要求した。料理や飲料など用途の広いシークワーサー。こよいもグラスの泡盛に搾り地元の香りに酔いしれる。

2020年8月22日 沖縄タイムス

今こそやんばるへ



記者席

○…コロナ禍で県外からの修学旅行キャンセルが相次ぐ中、県内中高生の修学旅行の行き先を「本島北部」にすべきたと提言する平良昭一県議（おきなわ）。観光の落ち込みもあり「今こそやんばるに目を向けてほしい」と語り、国頭郡選出として北部住民の危機管理意識の高さと感染防止対策に太鼓判を押す。県内中高生の修学旅行中止も多いが「修学旅行は一生の思い出になる」と強調。政治家として、子を持つ親として修学旅行を守ることを誓った。

2020年10月8日 琉球新報

与野党関係ない



記者席

○…コロナ禍で苦しむ観光業界と県議会各党派との意見交換会をこのほど主催した平良昭一県議（おきなわ）。観光業を中心に多様な業界から陳情が県議会に提出されているが、審査する委員会は3月中旬と先のため「悠長なことは言ってもらえない」と、代表質問の通告締め切り前日の開催にこぎ着けた。各党派がそろって業界団体との意見交換に参加するのはまだだが、「コロナは与野党関係ない」ときっぱり。今後も「まどめ役、として奔走する決意だ。

2021年2月26日 琉球新報

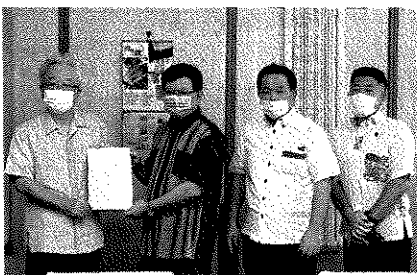
記者のメモ

「北部は一つ」説得に熱



○：新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために時短営業の要請に応じた飲食店などへの協力を、北部地域全体に広げるよう求める平良昭一県議（おきなわ、国頭郡区）。久田浩也令嶋仁村長と共に、県の大城玲子保健医療部長と向き合い、「我慢するところは我慢してきたが、特別扱いはずせない」と追った。北部市町村のうち、協力金の支給は名護市だけに限られており、不満が残る表情。県立北部病院が逼迫すれば、地域全体に影響が及ぶだけに北部は「一つ」と説得に熱がこもった。

2021年1月20日 沖縄タイムス



シークワーサー被害に支援要請
会派おきなわ、副知事にシークワーサーの産地として知られる本島北部地区で、原因不明の立ち枯れの被害が広がっている件で、県議会与野党派のおきなわ（平良昭一代表）は18日、県庁に富川盛武副知事を訪ね、早期の原因究明と生産農家への緊急支援策を講じるよう要請した。写真。富川副知事は「原因究明を急ぎたい」と述べた。平良氏は「生産農家や加工、販売業者は危機感を持っている。県には早急に対策チームの立ち上げや沖縄科学技術大学院大学（OIST）を活用するなどして原因究明を図ってほしい」と要望した。

2020年8月19日 琉球新報